

平成30年度主要な普及指導計画一覧

地域名	課題名	取組期間	対象名	内容	評価年度
東青	①「青天の霹靂」の生産拡大とブランド化の推進	H28～30	青森農協「青天の霹靂」生産者部会(61名)、青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会(4名)	「東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム」(以下PT)が核となり、集荷団体の営農指導担当者の技術の向上を図りつつ、生産者部会や関係機関と連携しながら、ICT技術を活用したほ場選定や適期刈取指導、栄養診断による追肥指導等を行う。	H28 評価
	②トマト指定産地の生産力向上	H28～30	J A青森トマト部会(91名)、J A青森ミニトマト部会(21名)	ミニトマト・トマト共に誘引作業等の省力化や単収向上と、新規就農者等による、生産者間の収量・品質のバラツキが見られるため、技術レベルの早期向上に向けた指導を行う。	
	③商品力が高い大粒品種ぶどうの普及拡大	H30～32	青森市ぶどう協会(20名)	優れた栽培技術を活用して、商品力が高く、高収益が見込まれる「シャインマスカット」の早期普及拡大を図る。 また、「シャインマスカット」並みの商品力が高い新品種の地域適応性把握と早期の導入拡大を図る	
	④若手女性等による農山漁村起業の推進	H29～30	若手女性等(28名)	意欲的に農山漁村起業に取り組む若手女性等を対象とし、個々の起業の成長段階に応じた支援を行うことで、実践力を向上を図る。	H29 評価
	⑤地域経営を担う集落営農組織等の法人化と経営改善支援	H29～31	(法人化支援) 南後潟営農組合(45戸)、六枚橋営農組合(41戸)、野内畑営農組合(5戸)、野田営農組合(21戸) (法人化後の運営支援) (農)小橋(8戸)、(農)ますだて(14戸)、(農)左堰(22戸)、(農)北後潟営農組合(58戸)、(農)上小国ファーム(54戸)、(農)大平ファーム(29戸)、(農)南青ファーム(15戸)、(農)中小国ファーム(31戸)、(農)ファクトリー下小国(25戸)、(農)外黒山ファーム(11戸)、(農)ごうさわ(22戸)	管内11の集落営農法人は、国の交付金に依存しない経営と、高収益作物の導入、経理やオペレーターを担う将来の人財の確保に向けた支援を行う。 また、大規模農家や若手農家の経営の法人化に向けた、個別相談等に取り組む。	H30 評価
中南	①農業経営基盤の強化による地域経営体のステップアップ	H29～31	農事組合法人にしめや(51戸)、(村市地区集落営農組合(14戸)、杉ヶ沢集落営農組合(10戸)、田代集落営農組合(43戸))	「農事組合法人にしめや」の法人化後初めての作付に向けて、新品目の導入や組織体制の整備など、継続性の高い組織運営について支援する。	

地域名	課題名	取組期間	対象名	内容	評価年度
中南	③田舎館産米のブランド化に向けた栽培技術の確立	H29～31	田舎館村「稲華会」(16名)	「あさゆき」は「青天の霹靂」より知名度が低いため、「青天の霹靂」の知名度を利用しながらの販路拡大に向けて、新たな取組みを進める。これらの取組みを支援しながら、田舎館村が平成28年に設置した「『田んぼアートの里』ブランド化推進協議会」と連携し、特別栽培米の高付加価値化・流通販売体制づくりを支援し、田舎館産米のブランド化を進める。	H29 評価
	④「青天の霹靂」の付加価値づくりと良食味・高品質生産の推進	H30～32 更新	中南管内「青天の霹靂」作付者(386経営体)、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会(24名)	関係機関で構成する中南地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームの活動を継続し、生産者や関係機関と情報共有していくことで、生産者の生産意欲の向上と良食味・高品質生産に向けた意識を高め、リモートセンシング技術や特別栽培の安定生産、GAPの認証の取得を推進し、県産米の評価向上を図る。	
	⑤市場ニーズ拡大に対応した高品質ももの生産推進	H28～30	つがる弘前農協桃部会(110名)、津軽みらい農協もも生産協議会(津軽もも生産部会53名、尾上一般果樹部会15名、黒石地区もも栽培研究会11名:計79名)、相馬村農協もも生産者(13名)	高位生産者(大玉比率が高い)と低位生産者(同低い)の園地における管理作業の違いによる果実品質の差を明らかにし、高品質ももの生産を徹底する。また、管内各地で凍害による若木の枯死が目立つようになってきたことから、凍害防止技術の普及に取り組む。 有望品種については、中晩生種「まどか」と極晩生種「さくら白桃」が有望であると思われ、継続して生育特性を確認するとともに、今後、導入を誘導して収穫作業の平準化を図る。また、予冷保管技術の試験結果を踏まえ、今後の生産量増加への対応や販売期間の延長に役立てるため、各農協と活用方法について検討する。	H28 評価
	⑥商品性の高いぶどう生産に向けた支援強化	H27～30	弘前地区農協ぶどう連絡協議会、弘果弘前中央青果株式会社シャインマスカット生産者	シャインマスカットは、高品質生産のために無核化处理や、房づくり、被袋などスチューベンと異なる技術や、被袋前の病害虫対策が必要である。このため、連絡協議会、地元市場と連携を密にとりながら、展示ほを活用して、栽培管理方法、病害虫防除を周知するとともに、新規作付け者の巡回指導を実施する。また、関係機関と協力しながら、糖度18%以上の果実生産に向けた粒数、1粒重等の生産基準の検討を行う。	
	⑦「津軽のミニトマト」の産地力強化	H30～32	JAつがる弘前ミニトマト生産者(54名)、JA津軽みらいミニトマト生産者(129名)	産地間競争の中で産地を維持発展していくためには、関係機関が情報を共有しながら、省力機器の導入や省力栽培技術の普及を図り、1戸当たりの作付面積を拡大するとともに、大幅に増えている新規生産者の、早期安定生産に向けた技術習得支援体制を強化する。 また、現在は付加価値をもったブランド商品がないため、百貨店等の販売が少ない状況にあるため、販売面の強化に向けて検討する。	H30 評価

地域名	課 題 名	取組期間	対 象 名	内 容	評価年度
三八	①新規就農者の育成確保	H29～31	農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付対象者（旧青年就農給付金受給者）（103名）、交付終了者（34名）	新規就農者については、技術や資金が乏しく、経験も少ないことから、当初の計画どおり進んでいない事例も見られており、早期の経営安定に向けた支援体制の構築を図る。さらに、29年度には農業次世代人材投資事業に改まり、新規就農者への相談の強化が打ち出されたことを受けて、30年度からは新郷村において、関係機関が連携して栽培技術や記帳による経営管理をサポートする体制を構築する。	
	②農山漁村女性による起業活動の強化	H29～31	産直ネットワーク等に参画している女性起業家及び起業を希望する女性（85名）	経営規模は、零細な経営が6割を占め、女性起業家の年齢構成は60歳代以上が8割となっているため、新規に起業活動を開始する農山漁村女性の育成と販売力及び経営力等の向上による起業活動の強化及び事業拡大を目指す女性起業家の育成を図る。	H29 評価
	③すもも有望品種「サマーエンジェル」等の高品質安定生産の推進（H29～H31）	H29～31	J A八戸果樹総合部会プラム・プルーン専門部（112名）	すももは大玉生産の収益性が高いが、人工授粉や着果管理等を省いた栽培による、結実不足となる年がある一方で、結実過多年には小玉果が多くなり、品質にばらつきがみられることから、栽培指標を作成し、適切な栽培管理を指導する。 また、産地化に向け「サマーエンジェル」及び「紅香のしずく」の導入も進んでいるが、収穫適期や栽培法が不明であり、早急な対策を図る。さらに、商品性を著しく損なうシンクイムシ類防除にも苦慮しており、今後の本格的な販売に向けて、防除方法の確立を図る。	
	④後継者の育成によるながいも産地の維持	H29～31	八戸農業協同組合野菜総合部会 ながいも専門部 ながいも若手研究会（50名）	「ながいも若手研究会」会員の技術向上を図る。	
	⑤将来を見据えたにんにく産地の維持	H29～31	八戸農業協同組合にんにく専門部 五戸支部西部（218戸）、田子支部（145戸）	にんにく生産者が種子増殖ほを設け、健全種子を確保するための指導を行う。 チューリップサビダニの被害を増加させる問題点が明らかになってきたため、チューリップサビダニの被害状況を把握し、被害の多い生産者について保管、管理体制を改善のための指導を行う。 また、一戸あたりの作付面積増加に伴い、生産量に見合わない乾燥施設や不適切な乾燥管理が散見されるため、乾燥技術が未熟な生産者について、状況把握を行う。	H30 評価

地域名	課題名	取組期間	対象名	内容	評価年度
西北	①極良食味品種「青天の霹靂」の高品質・良食味生産	H28～30	平成30年産「青天の霹靂」作付予定者394名（作付予定面積610ha）	生産者に対し①栽培マニュアルに基づいた技術指導、②生育状況・天候予想等のタイムリーな情報提供、③ICT（リモートセンシング）技術による適期刈取り指導など、PT一丸となった生産指導を展開し、西北地域産「青天の霹靂」のブランド米としての評価を確立する。	H29 評価
	②水田を活用した加工・業務用野菜の産地育成	H29～31	加工用トマト生産者（3法人、2名）、加工用たまねぎ生産者（2名）、JAごしょつがるつくねいも生産者（25名）、JAつがるにしきた加工用ねぎ生産者（21名）	加工用トマトとねぎの実証ほで一定の成果が得られたが、たまねぎとつくねいもの実証ほでは排水が問題となったため、この対策を強化し実証する。	
	③シャインマスカットの産地育成	H28～32	シャインマスカット作付者（64名）	シャインマスカットは無核処理や摘粒、袋かけなど、スチューベンに比べ高度な技術が必要で、今後、面積拡大と樹の成長とともに生産量が増加することから、高品質を維持したまま省力化できる栽培技術、さらには、規模拡大や新規導入に当たり、既存の経営に適確に組み入れるための労働時間・収入・経費などの経営指標の作成。	H28 評価
	④産直組織等を核とした西北産品の販売拡大	H26～30	西北管内の産直組織（32組織）、西北津軽産直ネットワーク協議会（15組織）、農山漁村女性起業家（72経営体）	今後、取組を定着させるためには、安定運営に向けた利用者の拡大、地域で支える体制の構築を図る。 また、産直組織及び女性起業家の販売力強化を図るため、ネットワークを活かした販路の拡大や経営力アップ、さらには女性起業家等の育成に向けた研修機会の確保と個別支援を行う。	H28 評価
	⑤西北の魅力を感じるグリーン・ツーリズムの推進	H29～30 更新 予定	西北管内グリーン・ツーリズム実践者及び志向者（約40名）	少人数で旅行するゼミ所属の大学生等をターゲットとし、平成29年度は農山漁村体験や観光資源を組み合わせた旅行プランを2コース作成し、旅行商品とするために、首都圏の大学を対象としたモニターツアーなどによりブラッシュアップする。 また、実践者も増加傾向にあることから、受入を段階的に経験させたり、取り組みやすい受入方法の提案・普及により新たな実践者と組織を育成し、G・Tによる西北地域の活性化を図る。	H30 評価
上北	①新規就農者の定着と経営基盤の強化	H28～30	農業次世代人材投資資金（青年就農給付金）（72人）	管内には新規就農を志す若者がいるが、農業技術や経営感覚が未熟なため、就農したものの十分な収益を上げられない場合があるため経営の安定化を図る。	
	②農作業の軽労化の推進と農業労働力補完体制づくり	H29～30	管内女性農業者（野菜農家）	農業労働力を確保するために、農作業の軽労化による労働寿命の延伸と農繁期の安定的な労働力確保を図る。	H29 評価

地域名	課題名	取組期間	対象名	内容	評価年度
上北	③水稲（主食・飼料用）の省力技術導入及び飼料用米専用品種の作付け拡大	H30～31	十和田地区農事組合法人連絡協議会、（株）十和田アグリ、（有）みらい天間林、（農）フラップあぐり北三沢	水稲（主食・飼料用）の低コスト・省力栽培面積の拡大（乾田直播栽培、湛水直播栽培、高密度播種移植栽培）と飼料用米専用品種の作付け拡大に取組。	H30 評価
	④乳質改善共励会の活性化による酪農経営支援	H29～31	管内酪農家138戸（JAゆうき青森100戸、JA十和田おいらせ30戸、JAおいらせ8戸）	共励会で得られた有益な情報を有効活用し、乳質改善共励会の活性化と酪農経営支援を行う。	H28 評価
	⑤上北トマトの生産拡大による産地力強化	H29～30	JA十和田おいらせトマト部会（88人）、JAゆうき青森トマト部会（36人）	販売単価の高い9～10月の出荷割合を高めることと、A品率の向上を図ることで農家の所得向上を目標に、摘花や裂果対策技術についての指導を徹底し、両JAと連携して産地力強化を図る。	
	⑥生産力の向上によるながいも産地力の強化	H28～30	JA十和田おいらせ野菜振興会ながいも部会（558人）、JAゆうき青森野菜振興会ながいも部会（575人）、JAゆうき青森野菜振興会種子部会（30人）、JAおいらせ野菜推進委員会ながいも部会（455人）	優良種苗の安定供給、土づくり及び栽培管理等の基本技術の徹底により、品質向上による収量の底上げを図っていく。 また、今後の産地維持・拡大に向け、新技術導入（高支柱）に向けた取り組みを実施するとともに、将来の産地を担う若手農業者の育成を図る。	
下北	①地域ぐるみによる次代を担う若手農業者の育成・確保	H29～30	農業次世代人材投資資金（経営開始型）対象者及び見込者（22名）	新規就農者の経営安定を図るため、地域ぐるみによる支援体制の確立と国の農業次世代人材投資資金を活用した次代を担う若手農業者の育成を図る。	H29 評価
	②担い手育成と異業種との連携促進による直売所の活性化	H29～30 更新予定	下北管内農林水産物直売所（16組織）、新規就農者・就農希望者（17名）、野菜農家（150戸）、しもきたマルシェ実行委員会（11名）	直売所間の連携や、直売所と異業種間が連携した取組は少ない状況にあり、消費者に対する直売所及び地元食材の認知度が不足しているため、漁業・水産加工・食品製造事業者などの異業種との連携の機会・取組の創出や新規就農者や漁業者・女性起業など、直売所の新たな担い手の育成及び地域住民や観光客等に愛される直売所づくりに取り組む。	H30 評価
	③「下北アピオス」の産地力強化	H26～30	下北アピオス振興会（32名）、アピオス栽培農家	生産者の高齢化や冬期の出荷調製作業の負担により、大幅な作付面積拡大が見込めないことや、「下北アピオス」の知名度向上に伴う消費者からの食味・品質への要求が高くなっていることから、単収の向上と品質の高位平準化に取り組む。 また、品質の高位平準化では、出荷調製作業の早期化に向けた糖度の確保を図る。	